



「ええじゃないか」！5年生がんばりました！

7月7日（土）朝、牟呂八幡宮で、5年生の子ども達が自慢の「ええじゃないか」を奉納しました。子ども達が力強く踊る姿はとても壮観で、皆様から大きな拍手をいただきました。お忙しい中、来ていただいた保護者の皆様、ありがとうございました。

本来、「ええじゃないか」騒動は、江戸末期の1867年（慶応3年）7月から1868年（慶応4年）にかけて、東海道、近畿地方を中心に全国的にブームになった社会現象です。その発端が牟呂大西で起きたお札降り（天からお札が降る）の騒動です。そして、そのお札降りは慶事の前触れだと世間に広まり、民衆が仮装して「ええじゃないか」を連呼しながら集団で町を巡って熱狂的に踊ったものだそうです。

（参考資料：郷土読本「むろ」）

「ええじゃないか」発祥の地、豊橋市の牟呂八幡宮で7日、豊橋商工会議所青年部による「お札まき」や牟呂小学校児童による「ええじゃないか創作ダンス」などが行われた。

ええじゃないか お札まきやダンス

牟呂八幡宮で豊橋商議所青年部



青年部がまくお札に手を伸ばす住民ら—豊橋市の牟呂八幡宮で

1867（慶応3）年7月に牟呂村（当時）で、空から伊勢神宮のお札が降ってきて、民衆が派手な衣装で「ええじゃないか、ええじゃないか」と

練り歩き、それが全国に広まったといわれる。同青年部が、その文化伝承と地域活性化のため2006（平成18）から「お札まき」を再現し、今では恒例行事となっている。

この日は、当時のように着物姿で顔を白塗りにした青年部メンバーや親子衆、地域住民、牟呂小児童らが集まった。青年部が拝殿で事業成功を祈

願したあと、牟呂小5年生約100人が半年ほど前から練習してきた「ええじゃないか創作ダンス」を拝殿前で披露した。赤と青の法被に鉢巻姿の児童らが、お札が降ってきた民衆が喜び練り歩くまでのストーリーに合わせた踊りを元気がいっぱいだった。踊りで盛り上がった境内で、商売繁盛や家内安全を祈願した赤いお札と、同八幡宮から提供された餅や菓子がまかれた。児童らを含め、楽しみに集まった住民が舞い降りたお札などに手を伸ばした。

牟呂小5年の小柳津聖菜さん、小柳津聖菜さん、三島奈那子さん、佐々木颯さん、井口小暖さんの5人は「最初の構えやリズムに合わせるのが難しかったけど、練習通りにうまく踊れてよかった」と、お札や菓子がいつぱいの袋を抱えてながら話した。

（井嶋義典）

平成30年7月8日（日）掲載
東愛知新聞

交通安全の注意とお願い

先日、豊橋市でも交通事故があり、登校中の子どもが巻き込まれるという悲しい事件がありました。牟呂小学校では、登下校時や下校後の「横断歩道での左右の確認」「青信号を確認」を行い安全に注意するように各学級で子どもたちに話をしました。夏の交通安全週間も始まったこの時期に、是非、ご家庭でも安全について話題にしてください。

また、保護者の皆様が、お子さんのお迎えに来るとき、車の影に子どもがいたり、学校から急に飛び出したりすることがあり、危険な場面がありました。学校周辺の道幅は決して広くありません。特に、けやき門周辺での車の停車は非常に危険なので、けやき門前での車停車はご遠慮ください。お願いします。

